

Eureka X

六年制通信 No.37 令和5年2月24日(金)号

解釈力

田坂広志さんの『死は存在しない』という本を読みました。田坂さんは生粋の科学者ですが、世の中には科学ではどうしても解決できない問題があることを認めています。しかし、科学を万能と考えている人たちは不思議な体験、例えば占いが当たったとか予知夢を見たとか、そういう体験を偶然として片づけます。そして、今よりもっと科学が進歩すれば森羅万象を科学的に説明できると信じているようです。田坂さんは科学者ですが、自分の神秘体験を通して、世の中に起こっている不思議な現象に真摯に向き合っていると思います。確かに科学者の中には神を信じる人が多いと聞きますから、田坂さんのような人もたくさんいるのかもしれませんが。あのアインシュタインも、宇宙が膨張しているという説に対し、神様がそんな宇宙をつくるのははずがないと言ったのですからね。田坂さんはこの本で「ゼロ・ポイント・フィールド仮説」を解説しています。この要約は私の手にはあまるので本書を読んでもらうしかないのですが、少し紹介すると、宇宙のすべての情報、その中には私たち全員の意識、今まで生まれた人間の、これから生まれるであろう人間の全ての意識も含まれるのですが、それらすべてが波動情報として記録されている「フィールド」があるという仮説です。そして、その「フィールド」に私たちはつながっていると。そう考えると、これまで自分の身に起きた多くの不思議な現象が納得できると田坂さんは言うのです。文中で「最先端量子物理学では…」などと言われると私のような素人は恐れ入るしかないのですが、興味を持った人は読んでみるといいですよ。光文社新書です。

ちなみに、私は科学は測定できるものにしか通用しないと思っています。そして、人間の精神は測定を拒んでいると考えています。これは昔、ユングや小林秀雄を読んで考えたことです。また、私淑する先生のパスカルに関する本などから教えていただいた考えでもあります。現代科学は、私たちが本を読んでいると、私たちの脳のどの部分が活動しているかがわかります。そこまでは測定できます。しかし何を読んでいるのか、聖書かミステリーか純文学かはわかりません。そこから先は人間の精神の領域ですから測定はできない、私はそう考えています。

この世のすべてはエネルギーであり波動であるとする最先端量子物理学が、死後もなお人の意識は存在すると証明する日が来るのか、楽しみです。ついでに、生まれ変わりがあるのかどうかも、私はあると思っていますが、証明してほしいです。

また、田坂さんは『すべては導かれている』(PHP文庫)で「逆境を越え、人生を拓く五つの覚悟」を紹介しています。君たちも参考になる言葉を見つけてごらん。

- ・自分の人生は、大いなる何かに導かれている。
- ・人生で起こること、すべて、深い意味がある。
- ・人生における問題、すべて自分に原因がある。
- ・大いなる何かが、自分を育てようとしている。
- ・逆境を越える叡智は、すべて、与えられる。

いかがですか。よく読むと、人生が大いなる何かに導かれているのなら、人生で起こることの原因もその大いなる何かにあるのではないかと考えそうですが、田坂さんは原因は自分にあると言います。どうしてそう考えるに至ったか。皆さんはどう思いますか。私はこの五つの覚悟について、様々な年代の人に聞いてみたい気がしています。

この本の中で私が最も共感した文章は「何が起こったのか。それが我々の人生を分けるのではない。起こったことを、どう解釈するか。それが、人生を分ける」です。本当にその通りだと思います。辛いこと、面倒なこと、君たちの生活にも自分の人生にはマイナスだと思える出来事が起こることでしょう。私にもたくさんありました。今もあります。でもね、それらをプラスに解釈する能力を私たちは与えられている、そう信じていることです。そしてプラスに目を向ける訓練をしなくてははいけません。辛いことがあると私はいつも *a blessing in disguise* とつぶやきます。意味は調べてごらん。

今週のおすすめ

- ・小西マサテル 『名探偵のままでいて』 (宝島社)

第21回『このミステリーがすごい!』大賞の受賞作です。レビー小体型の認知症を患う祖父が名探偵役。孫娘の持ち込む難題を次々に解決するのですが、祖父の紡ぐ物語もいけれど、孫娘、同僚の男性、その後輩のミステリーマニア、それぞれのキャラが生き生きと描かれています。面白かったのは、覚えていますかねえ、以前『女か虎か』という、謎のまま終わるミステリーを紹介したでしょ。あれがこの本で取り上げられていました。王女が青年と恋をした。王様は怒って衆人環視の中で青年に罰を与える。競技場には扉が二つ。一つには虎、一つには若い美女。どちらかを選ばなければならない青年は、王女を見る。王女は扉の中身を知っている。王女は青年に合図を送る。ここで話は終わっていましたね。皆さん、皆さんが王女ならどちらを選ばせますか。「私のことはいいから若いきれいなお嫁さんと幸せに暮らしてね」なのか。「何なん。若い女て。何であいつだけ幸せになるわけ。私はどうなんの。私以外の女と幸せに暮らしているのを見るのはイヤやわ。虎に喰われて死んだらええねん」なのか。さて、小西さんはこの王女がどちらの扉を指差したのかを論理的に解決していましたよ。私は納得しました。なるほどね。そう考えるか。こわっ、ほんま、こわっ。女は怖いと思っていましたが、私の想像を超えてめっちゃ怖いわけやね。

孫娘の楓は小学校の先生、同僚の岩田先生は元球児、その後輩で岩田とバッテリーを組んでいた四季君は劇団の役者。このうち楓、四季、そして祖父がミステリーマニア。彼らの語る蘊蓄も楽しいよ。この作品は続編を期待したいですね。

BGMは Ray Parker Jr. の *Ghostbusters* でした…。